

# 「我が子に限って」は危険です — ドラッグ —

## 【プログラムのねらい】

最近、外国から密輸入される合成薬物のMDMAが未成年の間に広がりを見せていると言われていいます。余り深く考えずに興味本位に友人からの誘いで薬物乱用に入る少年少女もいると言われていいます。薬物乱用の実態を知り、薬物とかがわからない生き方について学習します。

## 【プログラムの展開例】（時間：60分程度）

	○進め方、◎ことばかけ	留 意 点
導入 10分	<ul style="list-style-type: none"> <li>○自己紹介をします。</li> <li>○プログラムのねらいや学習の進め方について説明します。</li>   <li>○自己紹介やゲームを行い、緊張を和らげたり、参加しやすい雰囲気づくりをします。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○明るく元気な話し方を心がけます。</li> <li>○今日のプログラムについてポイントをしぼりわかりやすく説明します。</li> <li>○参加者に気を配り、ゲームに参加できていない人や戸惑っている人には、明るく声かけをして参加を促します。</li> <li>○ゲームなどが終了するまでに、次の活動にスムーズに移れるようにグルーピングしておきます。</li> <li>○1グループ4人が6人とします。この後のロールプレイのために、なるべく偶数人数の編成にします。</li> <li>○導入で時間を取りすぎると展開やまとめの時間が少なくなります。あらかじめ時間配分を考えて進めていくようにします。</li> </ul>
展開 40分	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎「ワーク1」のクイズに答えましょう。</li>   <li>◎「ワーク3」では、ロールプレイを行います。「ワーク3」の活動を説明します。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○読み上げながら、参加者に答えてもらうという方法も考えられます。</li> <li>○回答 問1) ③ 問2) ② 問3) 全部 問4) ② 問5) ①</li> <li>○せりふを考えてもらいます。</li> <li>○2人組となってロールプレイを行います。</li> <li>○各グループを回りロールプレイの様子や交わされている会話の内容について把握しておきます。</li> </ul>

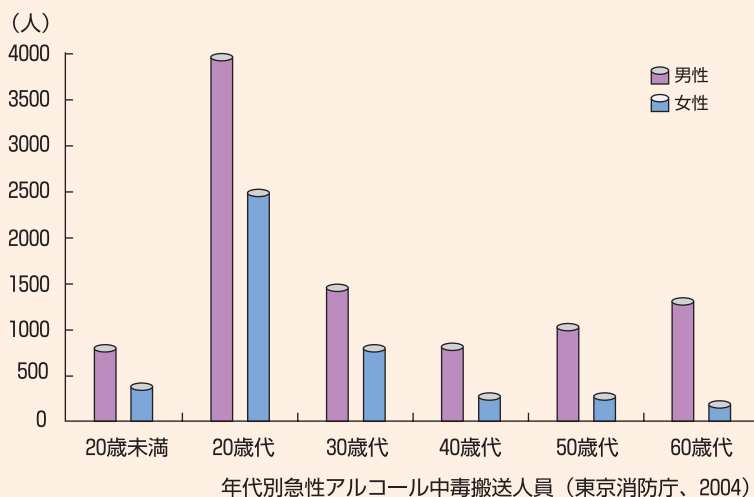
	<p>◎「ワーク2」の資料をもとに未成年者のたばこやお酒、薬物について問題点を話し合います。</p>	<p>○答えに「正しい」、「間違っている」ということではないので、感じたことや考えたこと積極的に発表してほしいこと、また、お互いの発表を共感的に受け止めてほしいことを話します。</p> <p>○各グループを回り、意見交換の様子や出されている意見の内容について把握しておきます。</p> <p>○アルコールの未成年者への悪影響について確認します。</p> <p>○「ほんの少し」という甘い考えが取り返しのつかないことになることを説明します。</p>
<p>まとめ 10分</p>	<p>◎今日の学習のまとめをしましょう。</p> <p>○参加者一人一人に今日の学習を通して考えたことや感想を書いてもらいます。 (ふりかえり)</p> <p>○発表してもらいます。</p>	<p>○今日の学習を振り返り、特に印象に残ったことを中心に書くように話します。</p> <p>○あらかじめ、数人の方に感想を発表してもらうようお願いしておきます。</p> <p>○発表を共感的に受け止め、発表に対して手短かにコメントします。</p> <p>○手引の資料を配付し、飲酒や覚醒剤の影響などについてもう一度確認します。 現状として、シンナー・トルエンなどにも引き続き注意を払う必要があること。近年若者に流行している幻覚剤で合成薬剤のMDMAや新たに法で規制されたマジックマッシュルームやケタミンなども注意が必要であることを話します。最後にたばこやお酒は入門薬物と呼ばれていることにふれ、その怖さを話しまとめます。</p>

※ 設定時間の短い場合には、ワーク1、3を中心に流れを考えるようにします。

## 資料 1

### 年齢が低いほど急性アルコール中毒になりやすい

急性アルコール中毒で病院に運ばれた人を調べると20歳代が最も多いことが分かります。10歳代にも相当数認められます。平成16年度に急性アルコール中毒によって病院に運ばれた10歳代の数は、男性739名、女性329名、合計1,068名でした。

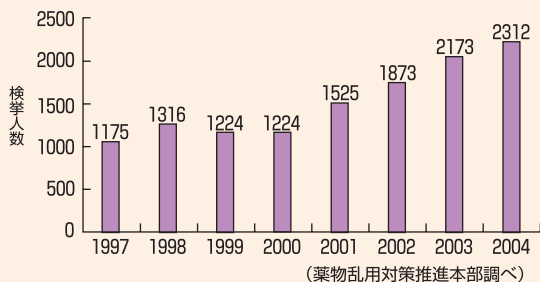


## 資料 2

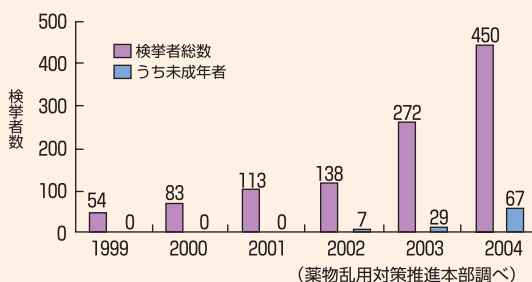
### 一度だけでも「乱用」と言い、犯罪です

薬物乱用とは、覚せい剤などの禁止されている薬物やシンナーなどの化学物質を不正な目的や方法で使用することです。近年、教育や取締りの強化により減少傾向にありますが、大麻やMDMAなどの薬物乱用が急増しています。

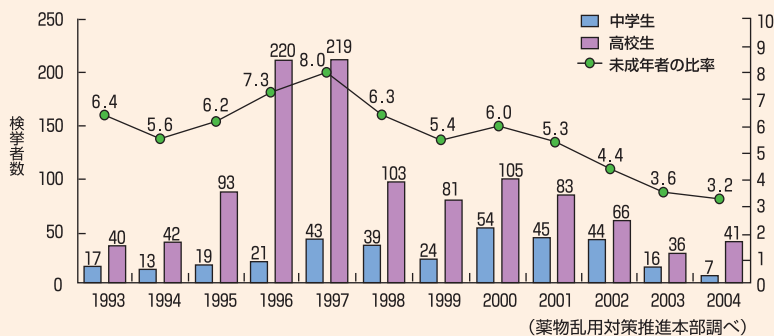
#### 大麻取締法による検挙人数



#### MDMA等合成麻薬による検挙者数の推進



#### 中・高校生覚せい剤事犯検挙者数及び未成年者の比率



## 資料 3

## 薬物乱用 Q &amp; A

**Q1** 一度だけなら大丈夫って聞きましたが……？

**A** 絶対にそんなことはありません。一度でも乱用すると、依存症になってしまう危険があります。一度でも死んでしまうこともあります。

**Q2** 覚せい剤はダイエットや勉強に良いって本当ですか？

**A** 絶対にそんなことはありません。覚せい剤は、一時的に心身をだまして食欲をなくすだけで、作用がなくなると異常に食欲が強くなります。覚せい剤を乱用すると、依存症や中毒になり、心身に悪い影響を与えます。もちろん疲れがとれたり、勉強に良いなどということは、絶対にありません。

**Q3** 一度依存症になるともう治らないのですか？

**A** 一生、やめ続けなければもとの戻ってしまいます。依存症に治るという言葉はありません。何年やめていても再び乱用してしまえばもとの状態に戻ってしまいます。一生やめ続けることが必要です。

**Q4** シンナーってどんな害があるのですか？

**A** 脳や神経はシンナーの害を受けやすく、正常な働きができなくなります。大量に吸うと死ぬこともあります。依存症になりやすく、乱用を続けると脳細胞を溶かし、「脳の萎縮」が起きます。破壊された脳細胞は一生回復しません。

**Q5** 薬物をすすめられたらどう対処すれば良いですか？

**A** きっぱり「いやだ」と言いましょう。「友だちに嫌われるから」と思っても、はっきり『NO!』と言うべきです。友だちからどう思われても、自分の心身、自分の一生を大切にしましょう。危険な場所・場面に近づかない、危険を感じたら立ち去ることが大切です。少しでも危ないと思ったら、“きっぱり断る”“逃げる”勇気をもちましょう。

**Q6** 薬物の問題で助けて欲しいときは？

**A** 担任や保健室の先生、家族、警察などに相談しましょう。薬物を乱用している友だちのことや、薬物をすすめられたりした場合は、一人で悩まず、きちんと助けを求めることが大切です。まわりの信頼できる大人に相談しましょう。

財団法人 日本学校保健会 <http://www.hokenkai.or.jp/3/3-1/3-1.html>

(資料1～3は、文部科学省『かけがえのない自分、かけがえのない健康 中学生用』から)